

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3292200049		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	隠岐の島町認知症高齢者グループホームみのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町2472-3		
自己評価作成日	2023年9月30日	評価結果市町村受理日	令和6年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域でゆっくり連れ立って、いきいきと暮らせる様支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人事業として特別養護老人ホームや通所介護など運営をしている。感染予防対策を取りながら運営推進会議を対面で実施している。面会も窓越しや居室での面会と徐々に緩和し、遠方の家族にも予約をしての面会の機会も作っている。外出や交流も制限される中で工夫しながら行い、食事に季節の旬の食材を活用し誕生日や行事で楽しんでもらったり、花見や紅葉を見に出かけている。介護職員不足や利用者の重度化が進む中で、少しでも希望に添えるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の原点は「理念」であり、常に意識を持ち介護を行っている。玄関から入ってすぐの廊下に張り出し、利用者さんや家族さんが目につくようにしている。	毎月の職員会は理念についての振り返りをする時間が十分取れなくなっているが、困ったり迷ったりした時には理念の原点に戻り話し合うように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染が落ち着いた頃に隠岐の島町のウルトラマラソンがあり、地域の人と応援に出かけた。又施設周辺への散歩などでは顔を知ってもらい声をかけてもらっている。	コロナ感染防止のため地域の方も遠慮され来訪されなくなっていたが最近少しづつ以前の状況に戻り、散歩での会話や交流が戻ってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を行い、意見交換している。ここ数年はコロナや他の感染症の状況など情報を得て、感染予防に努めている。感染対策をして、対面での会議を行い、顔を見て情報交換を行っている。	感染予防を徹底し会場を確保し対面での会議を実施している。要望や意見の交換が出来るようになってきた。	頑張って運営推進会議を実施されているので家族に運営推進会議の報告や情報提供をされることを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、町の職員や参加している方よりコロナや他の感染状況・防災の情報などを得る事が出来た。	運営推進会議を通して町の職員と連携できている。また、法人として町と情報交換はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の身体拘束の会議に出席し、身体拘束になっていないか、業務の確認を行い介護に生かしている。	拘束をしないケアを心がけている。法人の身体拘束会議に代表者が出席し、職員に報告して共有し気付きがあれば日々の支援で活かせるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の虐待防止の会議に参加し、虐待になっていないか業務の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度の利用は無い。又、実際に経験がなくどんなのかわからない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、利用者家族さんに説明し理解していただき、署名捺印してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時、重要事項説明書に苦情の窓口がある事を説明している。家族の面会時や電話があった時は、日頃の様子を伝え、意見要望などを聞いて相談しながら支援している。	コロナ禍、窓越しで顔を見るだけの対応で会話はできないが、家族に口頭で様子を伝えたり、意見、要望を聞きながら支援に取り組んでいる。	写真や動画、便りなど事業所から発信して家族との絆を繋げる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やミーティングで提案・検討し実践している。	職員会議などで提案や意見を出したり、普段でも気づきがあれば管理者に相談して検討し、その都度対応できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談し、勤務の状況や職場の様子を一人一人から聞いて、事業所が継続出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で施設外への研修等には参加できていないが、施設内での研修は可能な限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2年前に一度交流会が行われたが、その後は無し。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時、本人の要望や不安などに対して、本人・家族さんと共に一緒に考え対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や、入所後も本人の要望や様子を伝え、困っている事への対応や家族さんの要望も聞き入れ、検討し相談しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望時に、本人と家族さんから要望を聞き取る、グループホーム利用で他のサービスは利用できない事も説明する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き入れ、自室のモップかけや、昼食の盛り付けなど、職員と一緒に行う。難聴の人にはゆっくりと声掛けし、必要に応じて筆談での対応もする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が出来る時期には、来所された時に日頃の様子を伝えている。面会出来ない時期には電話での報告・メールでのやり取りで様子や必要な物の依頼など要望に対応している。必要に応じて、外出などの機会も作ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染が落ち着いていた時には、自宅の墓参りに帰り、地区の人と会い話しをされて、喜んでおられた。	馴染みの美容院へ、家族と一緒に連れていかれたり、職員が送迎をしたりして支援をしている。家族が来て散髪される方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同地区・同級生や昔からの顔見知りなどもおられ談話しやすいように席を設けたり、毎朝のモップかけや洗濯物たたみなど、職員が声掛けし一緒にする事で会話が弾んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された利用者さんの訪問し、様子を職員さんに聞いたり、本人と話したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症で意志疎通が困難な利用者には、ゆっくりと関わり、同じ訴えにも耳を傾け会話している。又、何気ない会話から聞き出し、情報共有し、本人の思いやしたい事に繋がる様に努めている。	時間を作り一緒に手作業や会話の中からその人の今の希望や思いを聞くように努めている。出来る事があれば共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅からの情報提供書や、サービス計画書作成時に家族さんから意見を聞いたりして、サービスの提供に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、日々身体の動きや精神状態も違うので、職員間で情報共有し状態観察し、見守りしている。塗り絵やゴミ箱作りなど出来る事をしてもらう。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話しあい、ケアプラン作成し職員会やミーティングで検討・評価し見直しを行っている。本人の好きな事や得意な事など取り入れ、現状に即した介護計画を立てている。	利用者、家族の要望や希望を聞いて本人の現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、状況に合わせ都度検討、見直し柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌や個人記録に記録し、申し送りし職員間で情報共有している。実践し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	島内におられる家族さんには、面会が出来る時は面会時に状況説明している。面会出来ない時期や島外におられる家族さんには電話やメールなどで説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、ボランティアさんの訪問などあり一緒に民謡を唄ったりしていたが、近年は訪問など出来ない状況。感染が落ち着いていた頃、ウルトラマラソンの応援に沿道まで出向き、地区の人と一緒に応援され、選手に声援を送っていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	都万診療所への月1回の受診対応。隠岐病院受診の利用者も必要に応じて家族さんへ協力依頼したり、同席して医師からの説明など一緒に聞いてもらっている。救急時には救急車依頼し、隠岐病院受診している。	定期的に受診対応をしている。利用者、家族の要請があれば相談の上で柔軟に対応して連絡を取りながら支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師はいません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時、本人の状態やバイタルの変化など詳しく説明し情報共有している。救急時には情報提供の用紙に状態を記入し、救急隊員の人に渡している。退院時にはカンファレンスに参加し、状態や注意点など詳しく聞いて、本人の情報を得る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院・家族さんとの話し合いを重ね、必要に応じて特養などの申し込みを行ってもらっている。看護師いない為、現在看取り対応はしていない。	事前に説明を行い状況に応じて関係者との話し合いや相談をしながら次に向けての適切な支援に繋がるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の施設内研修で救急救命の講習あり、可能な限り参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回行っている。	自然災害は、土地が低いため水害を常に想定し防災無線での情報収集や目視での確認、法人本部との協力体制、地区の防災との連携を取り、協力支援を得ながら避難できるように意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の合わせて、出来る事をしてもらう。必要に応じて筆談や耳元で話しをするなどしている。	職員は、地元の方言で親しみを込めて話しているが利用者によってはその言い方が苦手な方もおられるので職員間で話し合いながら模索し、声掛けや言葉使いなど一人ひとりにあった対応を考え支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	感染状況が落ち着いている時は、美容院でのカットや自宅の墓参りなど、家族さんにも協力してもらい外出対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味活動(塗り絵やゴミ箱作り)が出来る様場所の提供や、自分のノートに好きな事を書き込んだりしている利用者にはノートやペンの補充を希望時にはしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カット希望の利用者には地域の美容院への予約を取り、送迎している。化粧水や乳液を使っている利用者には必要な物の購入を家族さんへ依頼し買ってきてもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳・下膳など利用者へ声掛けし職員と一緒にいる。季節の物を献立に入れ、行事や誕生日には食べたい物の希望を聞き、献立に取り入れている。	旬の食材を摂り入れたり、行事や誕生日に希望や要望を聞きながら献立を考え食べる楽しみを提供している。利用者の重度化で一緒にできる方も少なくなってきたが出来ることをお願いし参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分チェックし、食事量少ない利用者には間食(パンなど)など適宜対応する。水分にムセのある人にはトロミ剤の使用や、お茶が飲めない人にはお茶ゼリーでの対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けと、出来ない人には義歯洗浄・うがいの介助。うがいの出来ない利用者には口腔ケアシートの使用。夕食後はポリデント消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを排泄チェック表を確認し、介助に必要な人には定時と随時でのトイレ誘導を行う。使用するオムツやパット類は一人一人状態に合わせて使い分けている。出来るだけ自分でしてもらい、見守り必要に応じて介助している。	少しでも自立できるよう自分で交換できる利用者には必要な物を渡し、見守りが必要であれば部分介助の対応で支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促し、お茶が飲めない人にはお茶ゼリー・水分にムセのある人にはトロミ剤の使用。ヨーグルトや乳製品の摂取。排便困難な人は医師と相談し、下剤の処方してもらう。毎朝の体操や居室の掃除など、身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の実施。排便など汚染時には適宜シャワー浴などで対応し、清潔保持している。入浴に強い抵抗や拒否の場合は、声かけする職員の交代や、2人での誘導や日にちの変更など臨機応変に対応している。	立位困難な人には2人介助や午前、午後に利用者の状態に対応している。季節を感じる入浴剤で香りや温泉気分を感じリラックスして楽しんでもらえるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜安眠してもらえるよう、日中に適度な運動や作業(趣味活動)や洗濯物たたみなどしてもらう。冷暖房使用での温度調節と衣類や寝具の調節し気持ちよく眠れる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋をはさんで、目を通して確認している。変更時にはミーティング帳への記載で確認している。朝・昼・夕と服薬時には名前の再確認を行い介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の居室の掃除や洗濯物たたみなどをしてもらっている。週2回のコーヒーの日やヨーグルト・プリンなど、希望の物を出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染状況を見て、施設周辺の散歩や、家族さんに依頼して外出や買い物などに一緒にしてもらっている。	春の花見や秋の紅葉などの計画をし、感染状況によって実施している。天気の良い日には、周辺での散歩や外気浴などの支援をしている。家族の協力で自宅への外出や墓参りなどを行っている利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設と家族で管理している。本人の要望などあれば、家族さんと協力して買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている人は好きな時に自分で電話をしている。そうでない人は要望のあるときは家族さんへ職員が電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって、ホール内の日の当たる場所などが違う為、その都度テーブル席の位置の変更などしている。壁には季節の物を折り紙で折ったり、タペストリーなど飾ったりしている。	利用者と一緒に季節の飾り物を制作し壁に飾ったり展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の席に座り、書き物をしたり、塗り絵やゴミ箱作り、洗濯物たたみなど話しをしながらしている。畳みに座り、好きなテレビを見たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れていた寝具やタンスなどを居室に入れ、本人と家族・担当職員と一緒に設置して。季節に合わせて衣類や寝具などの交換を家族さんと相談しながら対応している。	転倒やけがのないよう安全な動線を確保できるように利用者と話し合いながら居心地の良い居室作りの支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・トイレ・浴室はバリアフリーになっていて、安全で動きやすくなっている。入浴時の衣類の着脱やトイレでの衣類の上げ下げなど・声かけ見守りしている。		